

【目次】

1. 赤松常子、阿部静枝、民社党関連の資料寄贈を受ける、5月7日！
2. 資料の相互利用をめざし3団体打ち合わせ会議を開く、4月8日！
3. 連載「日本労働会館物語」第48回（日本労働会館に結集した人々―赤松常子）！

1. 阿部静枝、赤松常子、日婦の会、民社党の資料寄贈を受ける、5月2日！

友愛労働歴史館は4月24日、旧同盟関係者より阿部静枝（歌人、社会運動家。1899～1974）関連書籍の寄贈を受けました。また、当歴史館として新たに阿部静枝関連資料（『林うた歌集―さいはひー』、『阿部静枝歌集』）を購入いたしました。これは本年8月31日が阿部静枝没後40年に当たることから新たに始めた資料収集活動の一環です。阿部静枝の資料の一部は現在、仙台文学館に所蔵されていますが、歌人としての資料がほとんどのようです。

阿部静枝は、友愛会を創立した鈴木文治や大正デモクラシーの吉野作造と同じ宮城県の出身で、1926（大正15）年に第一歌集『秋草』を出版し、若くして歌人として知られた存在でした。労働組合との関係では、戦前・戦後の総同盟・同盟機関誌の歌壇の選者を務めています。

一方、阿部は1926（大正15）年に結党された社会民衆党（安部磯雄や片山哲らが結成）の婦人組織・社会民衆婦人同盟の創立に参加するなど、社会運動家としても知られています。夫は社会民衆党の政治家、弁護士として活躍した阿部温知です。阿部静枝は赤松明子、赤松常子らと並ぶ社会民衆党の3婦人とされ、戦前・戦後を社会民衆党→日本社会党（右派）→民社党という流れで一貫していました。戦後は日本社会党・民社党から出馬し、豊島区議会議員を三期務めています。



また、友愛労働歴史館は5月2日、旧民社党関係者より赤松常子（元ゼンセン同盟副会長、参議院議員）や日婦（日本婦人教室の会）関連資料の寄贈を受けました。赤松常子は戦前・戦後の総同盟・全織同盟の運動に携わった活動家で、参議院議員を三期務めています。詳細は本レポートに掲載した「連載「日本労働会館物語」第48回（赤松常子）」をご覧ください。5月7日には旧民社党関係者より、民社党関連資料（書籍、パンフレットなど）の寄贈を受けました。

2. 資料の相互利用をめざし3団体打ち合わせ会議を開く、4月8日！

友愛労働歴史館とUAゼンセン中央教育センター友愛の丘、富士社会教育センターは4月8日午前、それぞれが所蔵する資料の相互利用をめざした三団体打ち合わせ会議の第3回会議を開きました。

会議では前回会議までの確認点と、その後の取り組みについて各団体から報告を受けた後、今後の取り組みについて論議し、①第4回会議を10月頃に開催すること、②友愛労働歴史館所蔵のデジタル化資料（『同盟23年史』、『六合雑誌』、その他数十点）を9月末まで整理・公開し、3団体間でのデジタル化作業の重複を避けることなどを確認しました。

3.連載「日本労働会館物語」第48回

＜日本労働会館に結集した人々―赤松常子＞

赤松常子（1897～1965年）は、明治30年8月11日、山口県徳山市の浄土真宗本願寺派徳応寺に生まれた労働運動家、社会運動家、政治家です。総同盟や社会民衆党、社会民衆婦人同盟、日本社会党、民社党などで活躍。祖父は赤松連城（僧侶）、父は赤松照幢（僧侶。歌人と謝野鉄幹の兄）。常子の兄弟に赤松智城（京城帝国大学教授、宗教学者）、赤松信麿（医学者）、赤松義麿（洋画家）、赤松克麿（宮崎龍介らと新人会創立。総同盟本部勤務、社会民衆党に参加。この間、共産主義から国家社会主義へ転向。衆議院議員）、赤松五百麿（社会運動家）らがいます。



赤松常子は1913年、京都女子専門学校に入学。在学中、賀川豊彦の社会事業に協力しています（写真は賀川豊彦と赤松常子）。その後、中退して社会運動に従事。1923年に上京し、同年9月の関東大震災では賀川豊彦の罹災者救援活動に協力しています。1925年、総同盟に招かれて婦人部に席を置き、数少ない婦人労働運動指導者として昭和初期に頻発した山一林組や野田醤油、東京モスリンなどの労働争議に参加しています。

1926（大正15）年、総同盟が中心となって結成した社会民衆党（安部磯雄委員長）に参加。また、社民系婦人組織・社会民衆婦人同盟を、赤松明子（赤松克麿夫人、吉野作造の次女）や阿部静枝（歌人、社会運動家）らと結成しています。

1940（昭和15）年7月、総同盟は政府の圧力で解散に追い込まれますが、赤松明子はその最後の総同盟代表者会議にも参加しています。

戦後、1946年の総同盟（現連合）、全織同盟（現UAゼンセン）の結成に参加し、全織同盟副会長・婦人部長などを務めています。1947年の第1回参議院選挙で初当選し、1948年の芦田連立内閣で厚生政務次官。その後、参議院議員を三期務めています。



1948年の世界連邦建設同盟（現世界連邦運動協会）の創設に参加し、副会長。1960年には民社党結党に参加し、日本婦人教室の会（後の日本民主婦人の会）会長などを歴任しており、総同盟・社会民衆党ブロックの一筋の道を歩んでいます。1964年、仙台で遊説中に倒れ、翌1965年、逝去。享年68歳。

現在、赤松常子顕彰会（UAゼンセン・世界連邦・民社協会）による赤松賞が設けられています。これは「赤松常子の遺志を継ぎ、女性の地位向上や労働運動、平和運動、地域社会の福祉等に貢献した女性を表彰」するもので、毎年4月10日の「女性の日」に表彰者の決定、発表を行っています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairekikishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekikishikan.com>

唯一館から120年、友愛会から102年